

地域の持続可能性に向き合う学校ESD

—長野県飯田市遠山郷の事例を中心に—

小玉 敏也

(ESD-J理事・立教大学ESD研究所客員研究員・麻布大学)

発表の概要

- 1 学校と地域の「連携・協働」をめぐる問題の所在
- 2 ESD研究所地域創生プロジェクトの概要
- 3 2019年度の協働取組みの成果
- 4 コロナ禍（2020年度）における南信濃地区での協働取組み
- 5 多様な地域主体による持続可能な地域づくりの取組み
- 6 プロジェクトの展望と課題

1. 「学校と地域の連携」をめぐる問題の所在

「連携・協働」をめぐる問題の所在

(1) 学習指導要領

「社会に開かれた教育課程」「家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携」

(2) 『ESD推進の手引き』(2018)

「地域や大学・企業との連携」「地域の持続可能性に対する理解」

(3) 文部科学省の施策

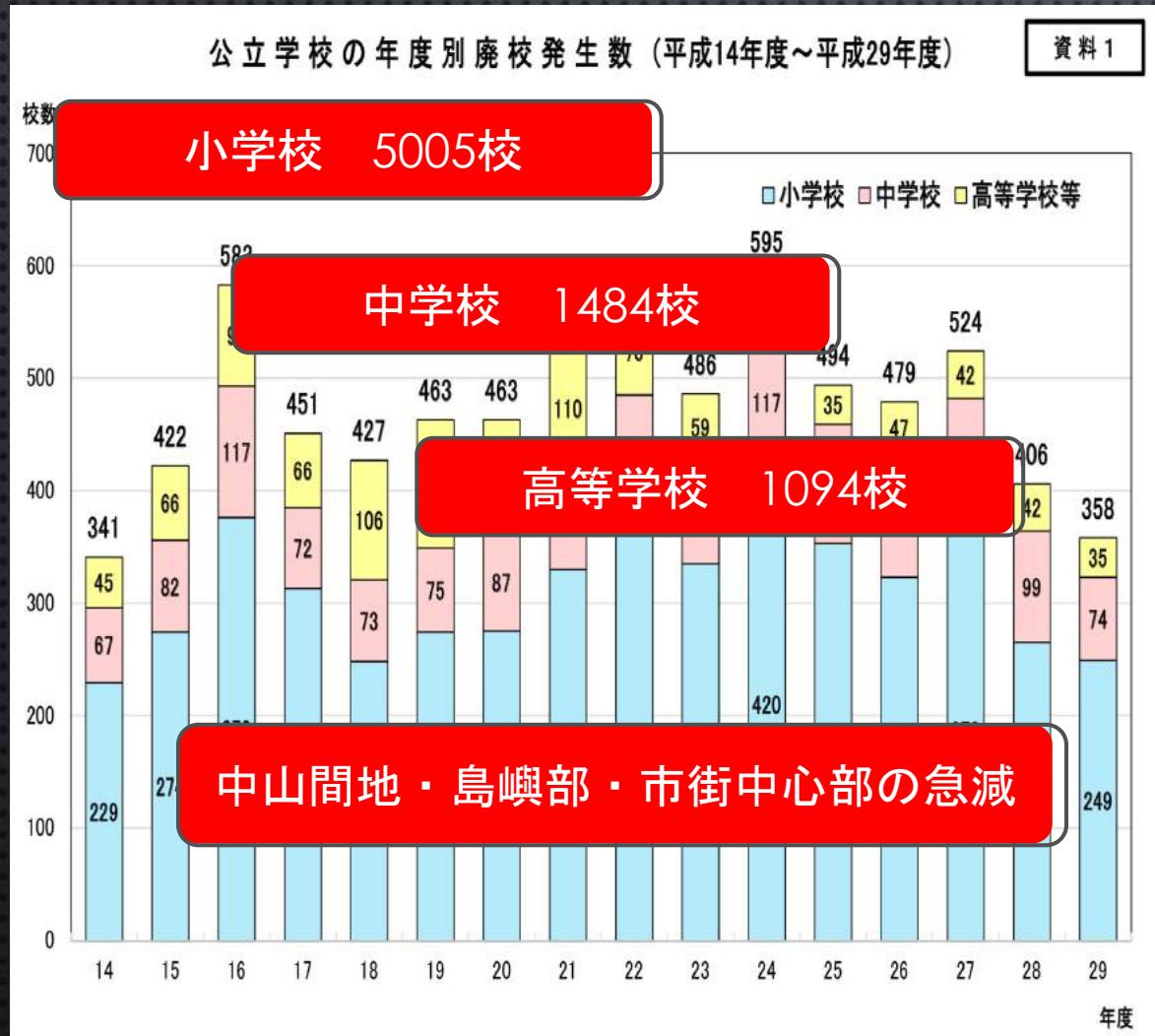
「地域との協働による高等学校教育改革の推進」(2018)

「地域学校協働活動とコミュニティスクールの一体的推進」(2020)

→ 「連携・協働」活動が「地域の持続可能性」をどこまで課題化しているか

→ 各学校が「地域の課題」に向き合う教育活動をどう展開しているか

「廃校」問題の重要性^{©文部科学省}



■ 「廃校」問題の影響

- ・子どもの声が消える
- ・伝統文化・暮らしの喪失
- ・子育て世代流入へのブレーキ
- ・地域産業の衰退
- ・地域そのものの消滅

■ 学校が担う課題

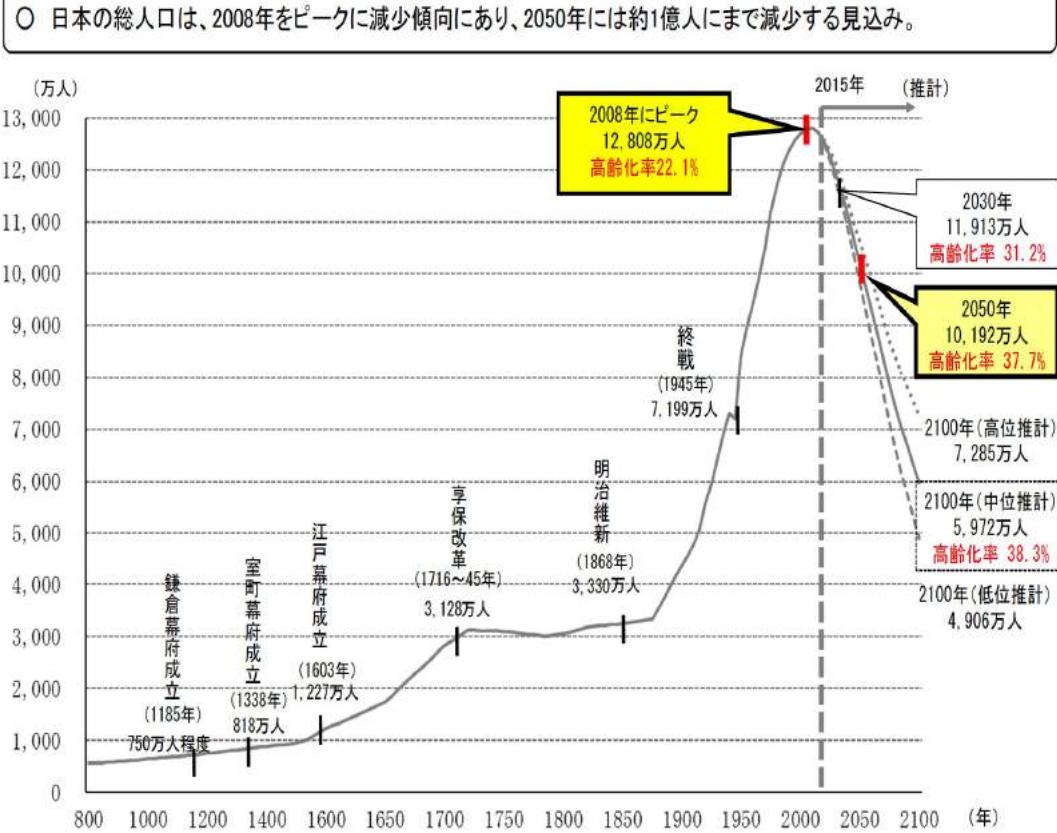
- ・児童生徒数増加への手立て
- ・伝統文化・暮らしの再評価と継承
- ・地域への愛着と誇り
- ・地域活性化のための参加・行動

学校ESDは「地域の持続可能性」を課題とせざるを得ない現状にあり、そこに日本のESDの発展の方向性と課題が凝縮される

人口減少社会と地方移住意識

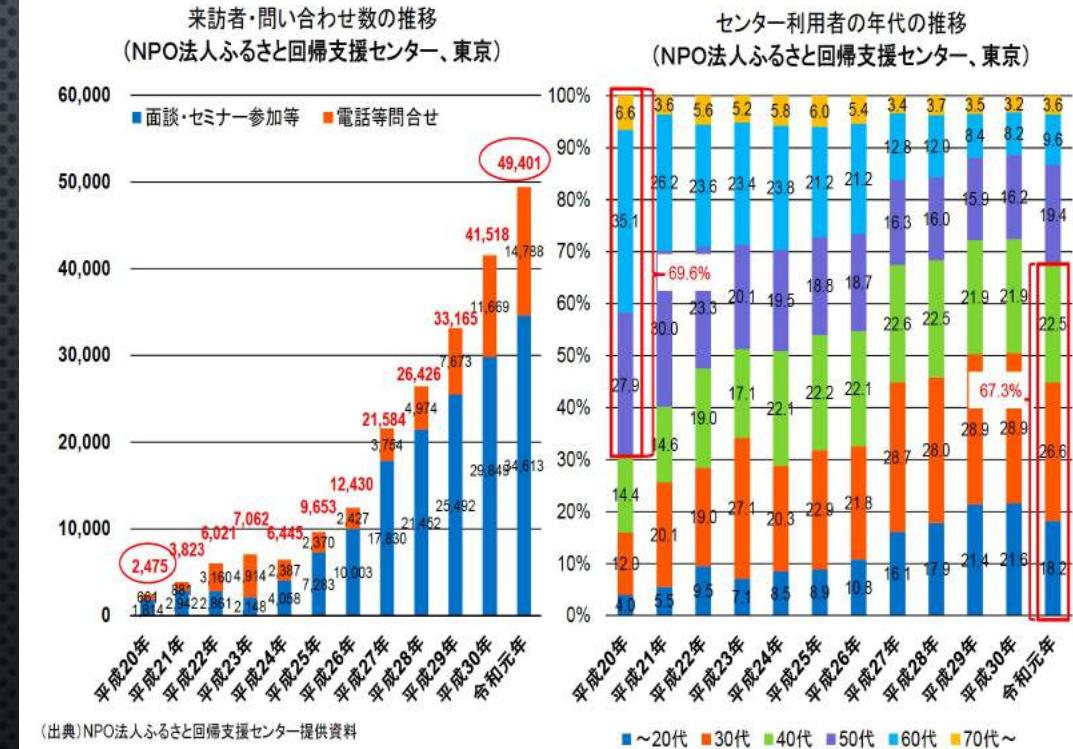
(国土の長期的展望2021)

【図I-1】日本の総人口は2050年には約1億人へ減少



【図VII-3】地方移住への関心の高まり

- ふるさと回帰支援センターの来訪者・問い合わせ件数は、近年飛躍的に増加しており、地方移住への関心は高まっている。
- 特に、40代までの若い世代が地方移住へ高い関心を示している。



2. ESD研究所地域創生プロジェクトの概要

「地域創生プロジェクト」の概要（2015～）

北海道羅臼町

- (1) ESD地域創生拠点の形成
- (2) 汎用性のあるESD地域創生プログラムの作成
- (3) ESD地域創生研究の理論化・体系化

→4自治体との研究連携協定の締結

長崎県対馬市

長野県飯田市遠山郷

静岡県西伊豆町

遠山郷の教育状況 (2020年現在)

- ・約1600人 (←飯田市人口約10万人)
 - ・リニア新幹線開業 (2028年)
 - ・三遠南信自動車道開通
- **課題**
- ・過疎化、高齢化、伝統文化・産業の衰退

■ 上村地区 (388人)

- ・上村小学校 (19人) : 小規模特認校
- ・上村中学校→2009年廃校

■ 南信濃地区 (1270人)

- ・和田小学校 (38人)
- ・遠山中学校 (37人)

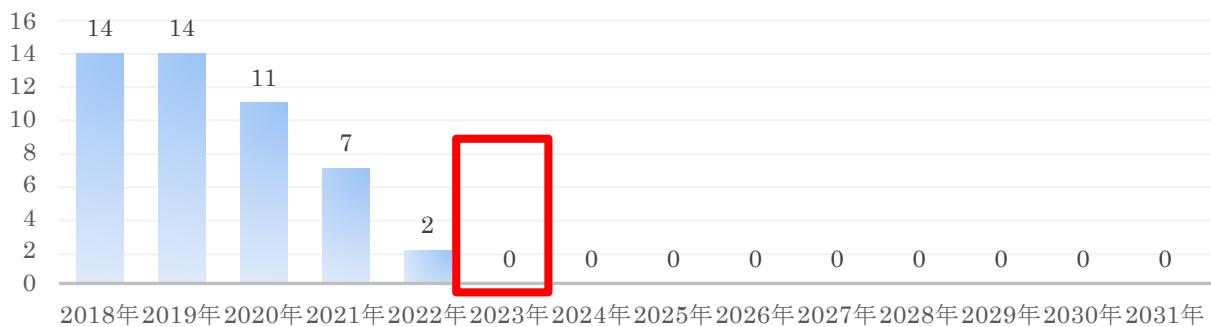


2030年（SDGs最終年）の危機

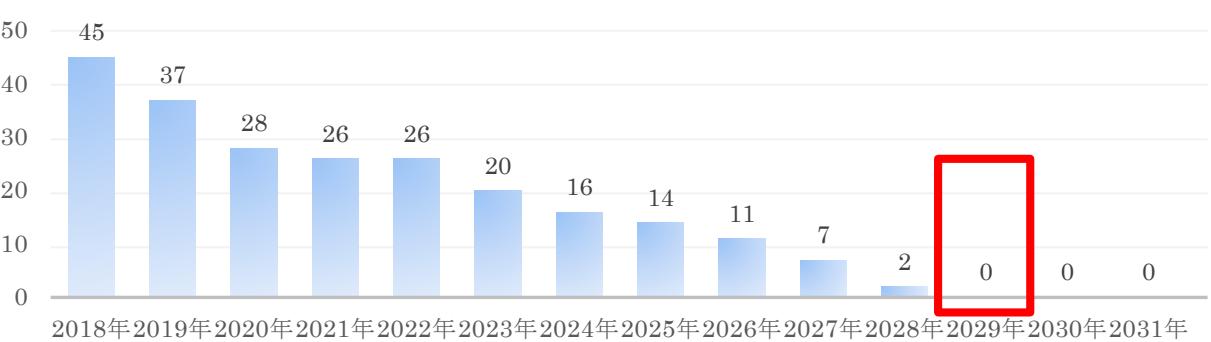


- ・「遠山郷のESD推進」（ESD研究所2018）
- ・「ESD for SDGsの実質化：3校の魅力ある学校づくり」（市教委2019）
 - ・飯田市「地域人教育」の推進（市長2018）

和田保育園 園児数



和田小学校 児童数



遠山中学校 生徒数



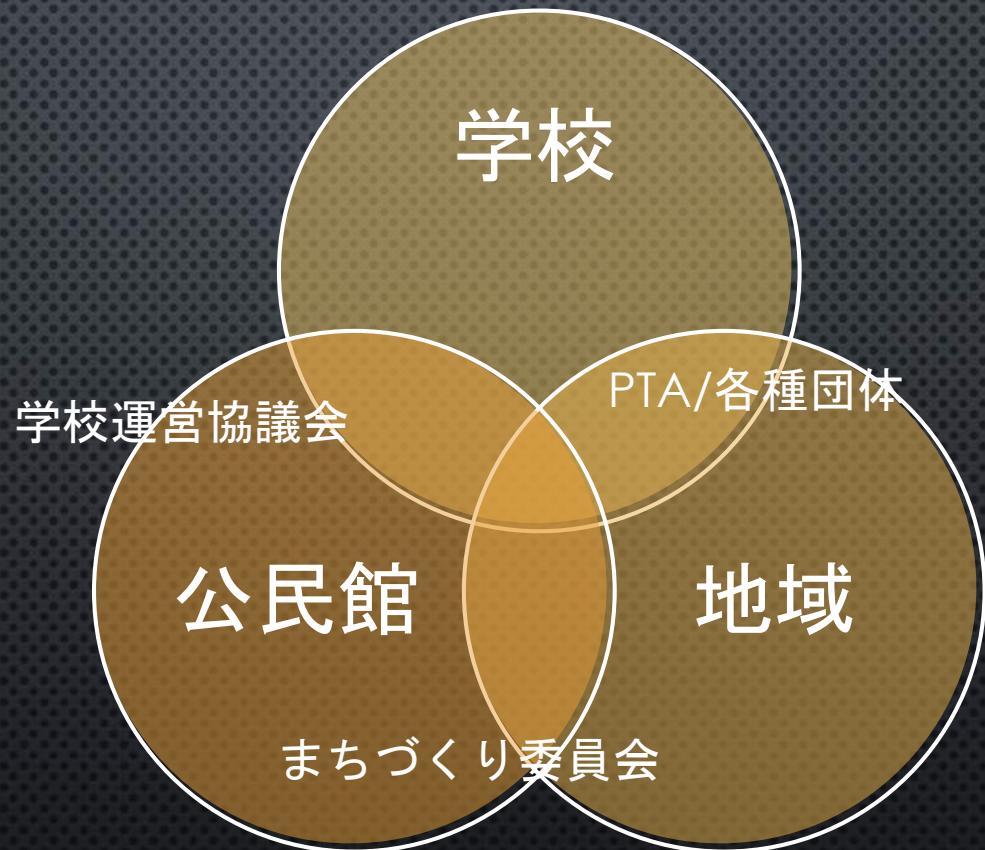
プロジェクトの概要 (2018~)

遠山郷3校対象の
教員研修

ESD地域創生拠点研究会

- ・ESD研究所
- ・企画課
- ・環境課
- ・移住定住推進課
- ・教育委員会

ESD研究所
▷阿部（所長：全体統括）
▷研究員
・朝岡（社会教育）
・小玉（学校教育）
・増田（幼児教育）
・田開（学輪IIIDA）



保育士対象の
自然体験に係る研修

公民館教育との
協働活動に係る協議

地域対象の講演会

学輪IIIDAとの連携

3. 2019年度の協働取組みの成果



ESD塾（東京農工大・立教大・麻布大・松本大）

- ・大学生による小中高校生対象の学習塾
- ・地元の「食文化」体験
- ・川での自然体験活動

上村小学校 ESDの進展

(1) 小規模特認校

- ・児童数の増加 9人（2018年度）→19人（2020年度）

(2) 先進的な教育活動

- ①複式学級による少人数授業
- ②歌唱・劇等の「表現力」の育成
- ③信大支援によるICT活用
- ④地域との積極的交流「霜月祭り」

(3) 学校運営

- ・SDGs目標の活用、HUMAN 5.0



「和田宿にぎやかし隊」の 発足と活動 (2018~) @ワダパゴス

■ 目的

- ・「自らの地域で暮らしを創り育てていく人」を見守り育む

- ・地域の実践と学校教育を広く大らかに結ぶ

■ メンバー

- ・地域住民（和田小保護者、商店主、地域起こし協力隊etc）

■ 活動

- ・街道縁日（商店街活性化イベント）

- ・寺子屋（ゲスト：学校教員、地域住民、ICT関係、映画上映）

- ・休業中の学習活動支援（自磨時間・ESD塾）

- ・婚活事業

- ・交流人口を増やすための各種事業



4. コロナ禍（2020年度）における 南信濃地区での協働取組み



自分だけのツーリズムを見つけよう！

写真をとることを目的にした旅行
→写真ツーリズム

川などで暑い日を体を冷やすための旅行
→ひえひえツーリズム

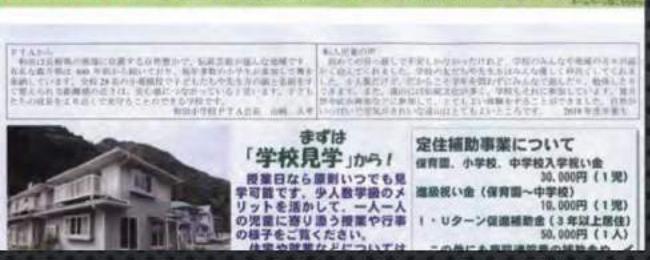
などなどなど...
その場所でできること、やってみたいことを言葉にしてみよう！



ハイブリッド型遠山郷ESD塾（4大学生×遠山郷3校子ども×公民館主事）



@松本大学・南信濃公民館



和田小学校のESDの進展

■ 学校長の講話

- ・「2030年には学校がなくなるかも？」
→学校の魅力化・持続可能性

■ 「Welcome tea project」

- ・伝統行事（児童の手摘み→乾燥→袋詰め）
 - ・児童数減を食い止める為の学校PR→市役所

■ 郁文館高校との遠隔授業

- ## ・伝統文化の紹介、英語の授業

■長野県すみっこクラブ

- #### ・県内の中山間地の学校との遠隔授業

■教育移住促進のためのチラシづくり

- ・東京郵便局から都内の子育て世帯に配布

©和田小学校



遠山中学校のESDの進展

■第50回博報賞「伝統文化継承教育」(2019)

- ・『霜月祭り』伝統の舞

■清流祭

- ・伝統の舞の発表
- ・地元高齢者施設にオンライン配信

■地域内での修学旅行

- ・飯田・下伊那地域の自然・文化・産業
- ・遠山郷の民宿に宿泊

■「持続可能な生徒会活動」

- ・SDGsによる既存の活動の意義づけ
- ・公民館主事を招いたまちづくり

■絆フォーラムへの参加

- ・地域住民と遠山郷の未来を語る



©遠山中学校・飯田市・中日新聞

遠山郷3校の教員定例会 “ESD FOR SDGS”の開始（2020）

■ 目的

- ・3校のESD推進に係る情報交換と課題解決

構成員

- 管理職 · 教員代表 · 市教委指導主事 · 研究所

■議論の内容（9月～月1回開催）

- ・3校の取組み交流
 - ・小中連携のあり方
 - ・遠山郷ESDの方向性



福岡市遠山地区区 小中連携一貫教育 「郷土を愛し、社会の一員として自立した生活のできる子どもの育成」を目標とする組み

令和2年度の重点 その① 持続可能な遠山郷の実現に向けた取り組み

活動の目的 遠山地区は、児童・生徒の人口が急速に減少している地盤である。将来この地域の学校が存続し、地域の未来が明るく持続可能なものになることを目指して取り組む。そのために、**遠山地区の人・自然・文化・学び・学んだこと・良さを発信すること**で人々を招き、自身も得た情報や支援の人材などと情報を交換する。**小中学校と地盤が連携してつながる**。



5. 多様な地域主体による 持続可能な地域づくりの取組み

南信濃1500人委員会（2019～）

■目的

- ・南信濃地区の定住人口を1500人にするための取組みの検討

■設立の背景

- ・和田保育園/小学校の存続の危機

■構成員

- ・公民館館長、まちづくり委員、保育園長、小中学校校長、和田宿にぎやかし隊、地域おこし協力隊員

■検討内容

- ・関係人口の増加、教育移住の促進、保小の合同行事、学校と地域の連携



遠山郷探検隊
商品・サービス

予約する

「遠山郷探検隊」の発足と活動開始（2020～）^{©遠山郷探検隊}

- ・遠山郷出身 or リターン者の20代によるプロジェクト
- ・自然体験活動等のツアービジネス化
- ・まちづくり委員会への提案

遠山郷フォーラム

～未来へ向けて『つながる』郷づくり～



当地域における人口減少は大きな課題で、特に園児・児童・生徒の減少が顕著で影響が大きいことが想定されます。住み続けられる地域づくりを進めていくうえで、地域を支える人材の育成が重要になります。遠山郷の特徴を活かし、地域に愛着をもった地域の担い手を育成していくためにも、両地区的様々な取組について、同じ目的に向かって連携しながら進めていくことが大切ではないでしょうか。キーワードは『つながり』。活動のつながりはもちろん、保育園、小学校、中学校、地域のつながり、遠山郷の内と外とのつながり等、様々なつながりから可能性が生まれます。

当フォーラムでは、両地区の若者達の地域活動や想いを共有するとともに、『つながり』の在り方や可能性について考え、遠山郷が一丸となり、さらに推進力をもって動き出せる機会として開催いたします。

日 に ち	令和3年2月28日（日）
時 間	13時30分～15時30分（予定） (受付：13時から)
場 所	上村小学校体育館 ※お車は交通誘導の指示に従い、グラウンドへ駐車してください。



遠山郷フォーラム (まちづくり委員会・公民館主催)

- **趣旨**：「遠山郷出身の若者が、活性化の取組みを通じて、地域の魅力や可能性について語る」
- **参加者**：地域住民、中学生（生徒会）、小中学校管理職、まちづくり委員、飯田市長
- **キー発言**
 - ・ 「未来へのバトンパス」（委員長）
 - ・ 「遠山郷は一つ」（主事）
 - ・ 「あんな人たちになりたい」（中学生）

第1回遠山郷絆フォーラム

(2021.3.14 : 公民館 + 中学校)

- **趣旨**：「中学生と地域住民が遠山郷の未来を語り合う」
- **参加者**：中学生2年生（生徒会）、地域住民地域活性化に取組む若者、高校生、中1・3
- **内容**：中学生による企画・運営
 - ①アイスブレーク
 - ②ワークショップ
 - ・遠山郷について思っていること
 - ・遠山郷の価値と課題
 - ・個人や団体で取組めること
 - ③決意表明→「絆の木」
 - ④合唱

第4回ESD -Jオンラインセミナー



6. プロジェクトの展望と課題

遠山郷ESD進展の要因



ESD研究所地域創成プロジェクトの課題と展望

1. 幼児教育の重点化

- (1) 保育園の「自然保育」推進と小学校の教育活動の接続→保育士研修の実績
- (2) 保育園の魅力化による入園者の増加への期待→移住・定住促進課との連携

2. 遠山郷3校ESDの魅力化

- (1) ジオパーク・エコパークを活用したESDの推進→環境課
- (2) 全国の実践者と結んだリモートによる教員研修の試行
- (3) 小中が連携したESD推進への支援

3. ESD塾・フィールドスタディの発展

- (1) 中学校生徒会と大学生との交流、学校休業中の補習への支援→地域団体
- (2) 高校「地域人教育」推進への協力→学輪IIDA

持続可能性の課題： 中山間地・離島・島嶼部

- ・目標 3 → 高齢者介護
- ・目標 5 → 家庭からの女性の自立
- ・目標 7 → エネルギー自給
- ・目標 9 → 地域の新たな産業創出
- ・目標 11 → 地域の活性化と再生
- ・目標 13 → 気候変動による自然災害増加
- ・目標 14・15 → 生物多様性への意識



ご静聴ありがとうございました

謝辞

飯田市教委・上村/南信濃公民館・上村小・和田小・遠山中・和田宿にぎやかし隊・地域の皆様